

広範な一年生雑草の光合成を阻害する除草剤

グラメックス®

水和剤

特長

- たまねぎ、ばれいしょ、アスパラガスや日本芝でも使える除草剤です。
- ノボロギク、ハコベ、シロザ、メヒシバなどの一年生雑草に高い効果があります。
- 雑草発生前から2~3葉期までが使用適期です。



ノボロギク



ハコベ



シロザ



アグロ カネショウ株式会社

東京都港区赤坂4-2-19

®はアグロ カネショウ(株)の登録商標

除草剤 グラメックス®

水和剤

適用雑草と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	シアナジンを含む農薬の総使用回数	
				薬量	希釈水量				
ばれいしょ	-	一年生雑草	植付後萌芽前	100~300g/10a	100ℓ/10a	1回	全面土壤散布	1回	
たまねぎ(直播栽培)			は種後出芽前(雑草発生前)	75~100g/10a					
たまねぎ		一年生広葉雑草	定植活着後(雑草発生前) 但し、収穫90日前まで	50~100g/10a					
ねぎ			100~200g/10a	100~150g/10a					
アスパラガス		一年生雑草	定植活着後(雑草発生前) 但し、収穫30日前まで	50~150g/10a					
日本芝			萌芽前又は収穫後(雑草発生前)	100~200g/10a		3回以内		3回以内	
桑			春期雑草発生前	200~400g/10a					
すぎ(床替床)			秋冬期雑草発生初期	50~200g/10a					
ひのき(床替床)			桑発芽前(雑草発生前)	200~300g/10a		2回以内		2回以内	
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 宅地 運動場 のり面等	雑草発生前	300~600g/10a	100~200ℓ/10a					
				300~600g/10a	3回以内		植栽地を除く樹木等の周辺地に全面土壤散布	3回以内	

令和2年11月11日現在

⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 本剤は雑草発生前～発生初期に有効なので時期を失しないよう土壤全面に均一に散布してください。
- 本剤はツユクサに対して効果が劣るので、ツユクサの優占圃場での使用はさせてください。また、広葉雑草に比べてイネ科雑草にはやや効果が劣るので、イネ科雑草には所定範囲内の多目の薬量としてください。
- 砂土、水はけの良い土壤では、薬害を生じるおそれがあるので使用をさせてください。また、雨の多い時期、場所での使用はさせてください。
- 高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるので、所定範囲内の少な目の薬量としてください。
- ばれいしょに使用する場合は、萌芽直前の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさせてください。
- たまねぎに使用する場合、マルチ栽培では茎葉部褐変、枯死等の薬害が生じるおそれがあるので使用しないでください。また、低薬量で使用する場合は、キク科雑草以外の草種には効果が劣るので留意してください。
- ねぎに使用する場合、次のような条件では薬害のおそれがあるので使用をさせてください。
 - ① 定植後1ヶ月未満などネギが十分に活着していない場合。
 - ② ネギの草丈が20cm以下の場合。
 - ③ 春期以降の気温が高まる時期
 - ④ 砂土～砂壌土の場所
- 日本芝で春期に使用する場合、芝の萌芽期以降の散布は黄化褐変等の薬害を生じるおそれがあるのでさせてください。また、秋冬期に使用する場合は、一時的に葉身に黄化や退色などの薬害を生じる場合があるので、芝生育期(生育休止期)に使用してください。尚「芝生育期(生育休止期)」とは茎葉の一部に緑色が残っていても、生育の停滞している時期を指します。
- 桑、すぎ、ひのきに使用する場合には、茎葉部に薬剤が付着すると薬害を生じるおそれがあるので、散布の際には作物にからなりよう注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、桑葉にはからなりようにしてください。
- 公園、庭園等で使用する場合、特に以下のことに注意してください。

- ① 農作物の栽培地周辺での使用をさせてください。
- ② 濟しい降雨の予想される場合は使用をさせてください。
- ③ 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分注意して散布してください。
- ④ 水源池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意してください。
- ⑤ 敷布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。

- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

⚠ 安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 敷布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体质の人は取扱いには十分注意してください。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に關係のない者が散布区域に立ち入らないよう繩囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管してください。

魚毒性…水産動植物(藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ってください。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
保管…密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

● ラベルをよく読む。

● 記載以外には使用しない。

● 小児の手の届く所には置かない。